

第 2 回生涯現役社会の実現に向けた就労のあり方に関する検討会 における主な意見

テーマ	主な発言内容
ヒアリング① 株式会社かい援 隊本部	○ 元気シニアの活躍の場・生きがいの場の創出と介護の人材不足という 2 つの課題を解決する。 ○ 資格の有無で垣根を設けず幅広く人を集め、一人一人現実的な形で勧誘していく、共感していただくという手法で、人の集まりにくい介護の分野に人を集める。 ○ 車の運転等の仕事もあり、男性の方の登録も多い。 ○ 社会の主役はあくまで若者であり、高齢者は脇役として現役世代に還元するような働き方が求められる。
ヒアリング② 多摩信用金庫	○ 地域におけるプラットフォームの機会を提供していくことで、縦の連携ではなく、地域の横のつながりを作る必要。 ○ 地域に戻った高齢者がお金を少しかけてもいいので、健康、学び、遊びということに触れられるようにクラブを設立。 ○ 市役所・商工会議所が行っている、シニアが中小企業に行って課題解決をするという事業に、信用金庫が加わり企業を紹介することで、非常にうまく機能している。 ○ マネジメントの世代交代が必要な段階に。大企業にいたパフォーマンスのある方々を引き入れる仕組みを作りたい。
ヒアリング③ 全国シルバー人 材センター事業 協会	○ 就業することで高齢期の生きがいを充実させ、地域社会の活性化に寄与することを目的とする。 ○ 経済的理由で来ている方も多く懸念事項となっている。 ○ 入会時の会員の能力や経験を把握するとともに、地域の協力を得て地域のニーズを把握して、それらに対応した就業先、職種の開拓をすることが必要。 ○ 地域のニーズに対応した技能講習・研修を行い、ミスマッチを解消することも課題。
今後の議論に おける視点	○ 社会福祉協議会やシルバー人材センターそれぞれだけでは、多様化している地域社会のニーズの 1 つ 1 つに上手に応えられていない部分がある。 ○ 昔は社会福祉協議会やシルバー人材センターしかプレイヤーがいなかったが、現在では NPO やかい援隊本部等の他の担い手が出てきたことで、個々にかなり格差が出てきている。 ○ 社会福祉協議会やシルバー人材センターは、様々なあり方があっていいし、役割はなくなることはないが、地域行政との結び付きが密着で、自ら様々な方向性を見い出していこうという突破力に欠ける。株式会社や NPO、信用金庫等うまく役割分担することが重要。